

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
看護学部・准教授 渡邊 聡子	看護学研究科博士前期課程：教育イノベーション事業	R1	850,000
研究概要			
<p>本事業の目的は、博士前期課程における研究コースの拡充として、2021年4月より、現在の5つのコース（成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学）に加え、母性看護学の領域を新設することである。本事業は、中期計画に掲げている大学院の改革から拡充というテーマの教育・研究の質向上を目指し、多様な学修の機会を新たに設け、教育環境を整える事業の一つである。</p> <p>医療技術の発達により、出産時の出血などによる我が国の妊産婦死亡率の低さは世界トップレベルにある一方で、自殺が妊産婦死亡の最多の死因となっている。世界では年間約30万人が妊娠・出産に関連した原因で死亡しており、非熟練者による分娩介助、緊急産科ケアサービスの不足、産科ケアの質の低さなどの医療的要因に、社会・経済、文化的要因が重なり生じている。また、グローバル化が進む中で、異文化圏における出産や育児を含め、セクシュアル・リプロダクティブヘルス／ライツの享受等に関する問題も生じている。</p> <p>母性の健康は世界に共通する課題であり、持続可能な活力のある社会の実現に不可欠である。本領域は、グローバルの視点から周産期や子育て期をめぐる諸問題、および、各ライフステージにある女性のセクシュアル・リプロダクティブヘルス／ライツに関する諸問題を把握・明確化し、質の高い看護援助の方法を探求する領域になることを目指す。</p> <p>グローバル化、疾病構造および社会構造の変化、周産期医療体制等から看護職に求められる役割は年々変化しており、他の保健医療福祉専門家との連携を含めた継続的なケアシステムの構築や、高度な看護ケアの実践、法的・倫理的、経済的側面における看護職の役割も期待されている。</p> <p>本領域を新設することは、卒業生を含め、母性看護領域で就業している看護職者への卒業後継続教育の機会を提供する。グローバルな視点を持ち、国内外における母子とその家族の健康の維持向上のために、質の維持および向上に貢献する研究に取り組める優れた研究者を育成できる。</p>			

研 究 成 果

(1) 領域名

母性看護学領域 研究コース (Maternal Health Nursing)

(2) 教育目的

母性看護学領域では、女性の健康を広い視野でみつめ、新しい家族を形成する過程にある母子やその家族を含む各ライフステージにある女性の、より健康でその人らしい生活を支援する看護を探求する。本研究コースでは、複雑で多様化する社会環境を背景として女性やその家族が直面している健康課題や看護実践上の課題の探索および解明に向けて、研究的に取り組む能力を修得する。

(3) カリキュラム

必修科目は、看護共通科目 13 単位以上、領域専門科目 14 単位以上、計 30 単位と定めた。

令和 3 (2021) 年度に看護学研究科博士前期課程に母性看護学領域を新設した。

(4) 学生の受け入れ状況

令和 4 (2022) 年度に 1 名の学生を受け入れた。

成 果 物 等

